

すぽっとライト

NO. 29

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、道路と線路の両方を走行できる新たな乗り物であるDMVのデモンストレーション走行が徳島県海部郡海陽町（旧穴喰町）において、実施されましたので、試乗された方々にお話を伺いました。



DMVは、Dual Mode Vehicle（デュアル・モード・ビークル）の略で、既存のバスをそのまま活用した「線路と道路のどちらも走行可能な乗り物」です。

日本では、利用客の少ない路線のコストを削減するため、JR北海道等が研究開発を行っています。

DMVの走行方法は、「道路（バス）モード」と「線路（レール）モード」があり、切り換えすることにより、どちらでも走行することができます。乗客を乗せたまま、わずか10～15秒で切り換わります。

道路を走行する場合は、バスと同様に前後のゴムタイヤで走行します。

線路を走行する場合は、ボンネット部分に格納された金属車輪を線路に降ろして、前輪のゴムタイヤを浮かします。後輪のゴムタイヤは、線路に接地させ駆動力になりますが、併せて線路の案内用として後部金属車輪も線路に接地します。

車両は、大型バスをベースにすると、後輪のゴムタイヤがレール上に乗らないため、旅



客定員 29 人の中型車両が採用されています。

また、より多くの人を輸送できるよう、2両を連結して運行するなどの対応策も検討されています。

JR 北海道の開発担当者のお話では、DMV の開発は、JR 北海道等が平成 14 年に開発に着手し走行試験を経て、現在、実用化に向けて取り組んでいるとのこと。

重量は約 7 トン/両（台）あり、最高速度は、道路モードが時速 100km、線路モードが時速 75km での走行が可能です。

現在は、車検を受けて公道を走ることができますが、試作車のため、今回のイベントにあわせ、開発拠点の札幌市から海陽町（穴喰）まで、トラックに積載して運搬してきたそうです。

当日のデモンストレーション走行は、一般の方がモニターとして乗車し、穴喰駅（阿佐海岸鉄道）を起点とし、牟岐駅（JR 四国）までを道路走行し、牟岐駅～穴喰駅車庫間を線路走行、その後、道路走行により室戸岬等へ向かうルートが設定されていました。

阿佐海岸鉄道(株)は、徳島県南部の海部駅～穴喰駅～甲浦（高知県）間の 8.5 km を運行する第三セクター鉄道ですが、利用者の減少が続き、経営環境は厳しい状況にあります。

また、徳島県南部から高知県東部地域へは現在バスが運行されており、交通手段を持たない学生や、高齢者等には必要不可欠な公共輸送機関となっています。

DMV は、少子高齢化・モータリゼーションなどの影響により経営状況が悪化している地域の公共交通機関の実情にあった形態での運行が可能のため、これらの地域で運行されると、利便性の向上が期待できそうです。

また、DMV の運行が観光資源になり、交通ネットワークがより便利で効率的になるとともに、地域の活性化につながるものと思われます。

海陽町及び海陽町と近接する自治体の現状

	総人口	65歳以上が占める割合	15歳未満が占める割合	
徳島県	那賀郡那賀町	9,318	42.4%	9.3%
	海部郡美波町	7,765	41.1%	9.1%
	海部郡牟岐町	4,826	41.6%	9.1%
	海部郡海陽町	10,446	37.3%	10.5%
高知県	安芸郡東洋町	2,947	40.5%	8.9%
	室戸市	15,210	38.3%	8.5%

※平成22年国勢調査より。



DMV 試乗者の声

DMV に試乗された方々に感想等をお伺いしました。

<p>車両や乗り心地について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り心地が良かった。特に線路を走行している時がとても良かった。 ・レールモードでの走行は、列車そのものの雰囲気、乗り心地も良かった。 ・レールモードでは、車両構造的にカーブでは負荷が掛かるので、音が大きく感じられた。 ・乗り換えが無く、鉄道と道路を走れて非常に便利だった。 ・モードの切り換えが、思っていたよりもスムーズだった。 ・バスモードは、普通のバスに乗っている感じだった。 ・バスモードで走っている時は、振動が少し気になったが乗りやすかった。 ・車両自体も観光の目玉になるので、地域の活性化に期待できると思う。
<p>導入への期待感や 利便性について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DMVは便利なので、阿佐海岸鉄道への早期導入を期待したい。 ・DMVが導入されたら、お年寄りの人が駅まで歩いて行かなくても、バスモードに乗ったまま、乗り継ぎも無く移動できるので、とても便利である。 ・便利な乗り物なので、実際に導入されたら利用する機会が増えると思う。 ・この地域にある観光スポットへの利用にも向いているので、導入実現に期待する。 ・鉄道駅での乗換えが要らないので大変便利だと思った。 ・阿佐海岸鉄道は、一部高架化している区間があるので、その区間でもDMVが簡単に乗り入れできるようにすれば、もっと便利になるのではないかと思う。
<p>観光や利用地域について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島の観光地の一つである大歩危(三好市)等での利用も期待したい。 ・近くに、昨年、世界認定となった「室戸ジオパーク」がある。DMVと室戸ジオパークをセットでPRできると、地方の活性化が期待できる。 ・あさてつ終着駅の甲浦から高知県の奈半利まで運行できれば、土佐くろしお鉄道と繋がるので、ますます便利になると思う。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のDMV試乗体験のことは、ローカルニュースのみの放送だったため、一部の人が知らなかったためPR不足だと思った。便利な乗り物なので、全国的にPRして欲しいと思った。

インタビューを終えて

インタビュー当日は、DMV の試乗体験にあわせて、様々な催しが開催されていました。

阿佐海岸鉄道(株)によるイベント限定特別列車が運行され、車内をLEDで装飾し、パフォーマーが乗車して芸を披露する等して、子供から大人まで幅広く、明るく楽しむことができる車内になっていました。

DMV は、乗り換えの必要がない便利さや、観光を通じた地域活性化の面からも、早期導入を希望する声が多く聞かれました。

今後、さらに少子高齢化社会が進むなか、バリアフリー化の整備も一層の推進が必要ですが、地方の公共交通機関の一つをDMV が担う日がそう遠くはないことを予感させてくれそうな試乗会でした。

最後に、この地域では伊勢エビ漁が盛んで、今回利用した穴喰駅の駅長さんは、2匹の伊勢エビ「あさちゃん&てっちゃん」が努めており、改札口前の駅長室でいつも利用者を見守ってくれています。そんな駅長さんが顔を出すと、並んで記念撮影をしている方も見受けられました。



インタビュー実施日：平成 24 年 2 月 12 日（日）・聞き手：藤井、本木